

## 日本でのジュラルミン開発を加速させた破片

|       |                   |      |                        |
|-------|-------------------|------|------------------------|
| 登録番号  | 第 00362 号         |      |                        |
| 登録年月日 | 2023 (令和5) 年9月12日 | 登録区分 | 第二種 (単一又は極めて少量生産されたもの) |

|              |  |  |  |
|--------------|--|--|--|
| 名称<br>(型式等)  | ツェッペリン飛行船骨組みの破片  |  |  |
| 所在地          | 愛知県名古屋市<br>株式会社UACJ  |  |  |
| 所有者<br>(管理者) | 株式会社UACJ   |  |  |
| 製作者<br>(社)   | ツェッペリン飛行船製造有限会社  |  |  |
| 製作年          | 1910年代   |  |  |
| 初出年          | 1914年  |  |  |
| 選定理由         | 日本の航空機用アルミニウム合金開発の契機となった、ツェッペリン飛行船骨組みの破片である。1916 (大正5) 年ロンドン駐在の氏家機関中佐は、ドイツ開発のジュラルミンを使用したツェッペリン飛行船の破片を入手し、住友伸銅所へもたらした。調査を行った杉浦稠三は、分析結果を元に翌年ジュラルミンの試作を開始した。2年後に成功、「住友軽銀 (ジュラルミンとルビ)」と命名され、日本の航空機用アルミニウム合金生産の端緒となり、その後の世界最高強度となる超々ジュラルミンの開発及び実用化に繋がった。技術の歩みを示す資料として重要である。 |  |  |
| 登録基準         | 一イ (科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの)<br>一ハ (新たな科学技術分野の創造に寄与したもの)  |  |  |

|        |    |
|--------|----|
| 公開・非公開 | 公開 |
|--------|----|

### 写真



その他参考となるべき事項